

高齢者外出支援 介助旅行

大津の龍大社会学部学生プロデュース

京で第1弾 要望聞き社寺下見 安全な行程考える

外出が難しい高齢者向けの日帰り旅行を龍谷大社会学部（大津市）の学生がプロデュースし、3月に京都で第1弾を実施した。訪問する社寺を下見し、参加者の要望を聞き取るなどして安全な行程を考え、医師らのサポートも得て実現にこぎ着けた。参加者は若者とともに観光や食事を楽しみ、笑顔あふれる1日となった。

3月中旬、京都市東山区の知恩院や円山公園を散策する一行があった。学生が2人一組で車いすのお年寄りに付き添い、階段では持ち上げて移動した。昼食中は談笑しながらも細やかに

手助けする姿があった。参加した下京区の芝原澄子さん（92）は「昔よく来た場所にまた来られてうれしい。学生さんとたくさんお話ができました」と喜んでいました。名付けて「まったり知恩院ツアー」。企画したのは、同学院部の「社会共生実習」で学ぶ11人の学生たち。普段は介助が必要で自宅などに閉じこもりがちな高齢者の外出を支援しようと、昨秋からツアーの立案を始め



ツアーに参加したお年寄りの移動を手助けする学生たち

（京都市東山区・円山公園）

観光や食事楽しみ 笑顔

た。介護旅行サービス会社「どこでも介護」（大津市瀬田大江町）の助言を受けた。学生たちは連携先の川口内科医院（京都市下京区）でお年寄りの要望を聞き取り、訪問先での移動経路やトイレの有無などを入念に調べた。過去2年間も同じ実習で企画に挑戦したが、コロナ禍のため実施には至らなかった。今回は同院の医師が直前まで体調観察を引き受け、介護福祉士が同行するなどして態勢を万全に整えた。同医院のデイケア利用者にはツアー参加希望を募り、平均年齢90歳の4人が参加した。

当日は思わぬタイムラグでトイレに立ち寄りたり、坂道で車いすの操作に戸惑ったりする場面もあった。同学院部現代福祉学科の依田和之さん（21）は「一座学では学べないことが多かった。皆さんが喜んでくれたことが何よりうれしい」と手応えを感じていた。大学は今秋に開講する同実習の中で同じプログラムの継続を予定している。

（小池直弘）



参加者（中央）に声をかけながら昼食をサポートする学生や介護福祉士ら